

1 主 題 名 感謝の心をもって B 感謝

2 本時のねらい

- 自分たちの生活を支えてくれる人々に、感謝の心をもって接しようとする心情を育てる。

3 準備・教材

- 教材名「ブラッドレーの請求書」
- 教師・・・場面絵、ワークシート

4 関 連

道徳 「オムライス」(家族で支え合う)

5 学習指導過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項
方向付け	1 価値への方向付けをする。 ○「ありがとう」と伝えた最近の出来事を振り返る。 ・友達にボールを譲ってもらったとき ・落とし物を拾ってもらったとき	5	○身近な出来事を振り返り、本時の方向付けをする。 ○発表は数人とし、出来事の様子を簡単に振り返らせる。
価値の追求・把握	2 本教材を読み、内容について話し合う。		○電子教科書の範読を利用し、内容を把握させる。 ○場面絵を貼りながら、あらすじを確認する。
	ブラッドレーは、請求書を書きながらどんなことを考えていたでしょう。		
	・がんばったから、お金がほしいな。 ・お母さんは、お金をくれるかな。 ・がんばったからもらって当然。		○お手伝いの見返りを求めるブラッドレーの自分本位な考えを押さえる。
	お金をもらえたとき、ブラッドレーはどんなことを考えたでしょう。		
	・お金がもらえてうれしい。 ・怒られるかな。 ・またお手伝いしよう。		○お小遣いがもらえたときの喜びや不安を共感的に捉えさせる。
	お母さんの請求書を読んだブラッドレーはどうして目が涙でいっぱいになったのでしょうか。		
	・自分のことしか考えていないことに気付いたから。 ・お母さんに悪いことをしてしまったと、反省したから。 ・お母さんの有り難さに気付いたから。 ・ぼくは自分のことしか考えていないけれど、お母さんは家族のために働いてくれていてありがとうと思ったから。	20	○ブラッドレーとお母さんの請求書を比較しながら、ブラッドレーの気持ちを考えさせる。 ○補助発問を通し、日常の当たり前だと思っていることの中にも、感謝すべきことがあることに気付かせる。 補 お母さんの請求書はどうして全て「0円」なのでしょう。 補 ブラッドレーの涙にはどんな気持ちがこもっていたのでしょうか。

価値の自覚	3 ブラッドレーの話を聞いて感謝の気持ちを伝えたい人とその理由を話し合う。 ・友達。困っていたときに助けてくれたから。 ・お母さん。毎日、掃除や洗濯をしてくれているから。 ・おじいちゃん。いっしょに遊んでくれるから。 ・先生。相談に乗ってくれるから。		40	○導入に戻り、身の回りに改めて「ありがとう」を言いたい人はいないか尋ねる。 ○意見が出ないときには、普段の生活の中でお世話になっていることがないか振り返らせ、具体的に想像させる。 評 家族など生活を支えてくれる人々のありがたさに気が付き、尊敬や感謝の気持ちを書いている。（ワークシート、発表） ○文が書けない児童には、短い言葉と絵で伝えてもよいことを知らせる。 ○授業で考えたこと、感じたことをワークシートに書かせ、何人かに発表させる。
	4 感謝したい人へ手紙を書く。			
まとめ	5 本時の授業を振り返り、感想を発表し合う。	45		

6 本時の評価

- 自分たちの生活を支えてくれる人々に、感謝の心をもって接しようという気持ちを高めている。（ワークシート、発表）

7 板書計画

ブラッドレーのせいきゅう書

「ありがとう」
 友だち
 ・消しゴムをかしてくれた
 お母さん
 ・そうじ、せんたく
 お父さん
 ・ごはんを作ってくれる
 先生
 ・相談にのってくれる

ブラッドレーの請求書

お母さんの請求書

せいきゅう書を書いているとき
 ・お金がほしい
 ・お母さんはくれるかな

お金をもらって喜んでいるブラッドレーの挿絵

お金をもらったとき
 ・うれしい
 ・おこられるかな

目が涙でいっぱい
 のブラッドレーの挿絵

目がなみだでいっぱい
 ・自分のことばかり考えていた
 ・お母さんのありがたさ